

根来山げんきの森倶楽部

令和5年6月作業日誌

活動日：令和5年6月18日(日) 9:30～15:30 天気：晴れ 倶楽部員：54人

6月2日の大雨は和歌山県内各地に猛威の爪痕を残し、げんきの森も一夜にして土砂の流入や倒木などの大被害がありました。自然の恵みと脅威が隣り合わせにあることを改めて感じさせられながら、倶楽部員の協力のもと、通常の活動に並行して復旧作業が行われました。

炭出し

参加者 9名

今回のトピックは、新しく交換した煙突を使って炭を焼いたことです。いつもは1週間くらい焼くのにかかるのが、3日でした！

作業内容は炭を窯から出し、10センチくらいにノコギリで切り、10kgずつ袋に詰め、20袋、200kg出来ました。いつもよりやや少なめとのことでした。

この作業では装備が重要です。全身炭で真っ黒になるので、汚れてもよいレインスーツ、長靴、帽子、マスク(できれば二重に)を忘れずに。重装備で暑かったけれども、サクサク作業が進んで午前中で出来上がりました。(萬賀 伊津子)



ヤマザクラ倒木処理

6人で、捻れて避けて倒れた桜の大木を片付けるのにローププラーを使ってテンションを掛けて倒れる方向を調整しながらチームワークで声掛けしながら安全に作業しました。

桜を木工の材料に使いように大きさをだまかに揃えて整理しました。コナラの大木も炭材用と木工用に仕分けして道沿い上げれるようにしました。

目の前で、生きた倒木処理の技術を目の当たりにして、危険な作業をより安全に木の様子を観察しながら進めていく姿が素晴らしかったです。(辻田 真伸)



先日の大雨で山側が崩れ遊歩道を塞いでいる部分の補修に取り掛かりました。男女6名での作業です。ネムノキ谷に面した処で、以前にも崩れヒノキの丸太を法面に打ち付け補修してくれていた場所ですが、その丸太ごと崩れ落ちています。

まず、道を2/3以上塞いでいる土砂を一輪車に乗せ、傷んでいる他の部分へ運ぶ作業からはじめました。3台の一輪車に乗せては運ぶを繰り返しましたが、一向に塞いでいる土は減ってくれません。午前の作業終了間際に杭を乗せたテラーがやって来ましたので、最後の踏ん張り、テラーに土を乗せ、プレーパーク入り口下の坂の地ならしをして本日は終了しました。

取り除くべき土砂はまだ沢山残っていますが、その後法面の土留めをして完成というところでしょうか。水をたっぷり含んだ赤土と格闘した皆さんお疲れ様でした。（赤坂 進）



プレーパークからもう少し奥の地点、遊歩道わきの山側斜面が最近の雨で崩れて、道の半分くらいまで被さっていました。別の場所では、経時的な劣化で地面の土がえぐれて石が露出し、凹凸が激しい場所が点々としているため、その修復も兼ねて、6名で作業が行われました。

斜面から崩れた土砂をスコップですくい、それを一輪車に載せて50mくらい手前の道がえぐれた地点まで運び、鋤簾で広げて均します。テラーが走行できるレベルまでに補修することが目標です。しばらく作業をしてふと思いました。「3台の一輪車で行ったり来たり…それなのに運んでも運んでも減らないぞ??」作業開始前は「さほどの量でもないな」と高を括っていましたが、やってみると意外とあるもんです。一輪車を使うのも、思い起こせば「人生で数回しかなかったな?」という具合で、完全に舐めてかかっていたですね。タイヤ1本のバランスが悪い一輪車に水をたっぷり含んだ土砂を積んで押すと、いつも歩くだけなら気にもならなかった緩やかな起伏が、心臓破りの坂と化します。「こまめに休憩しながらでないともたんよ」というTさんの言葉は常にグッドタイミング。「はい、ちょうど休みたいと思っていたところです!」水分の補給やら、煙の補給(?)やら、まちまちに一服したら、ゴールに向けて再開です。地均しすべき場所が概ね平らになった頃、遊歩道の逆ルートからテラーのエンジン音が聞こえてきました。

Hさんが杭や掛矢を持ってきてくれました。谷側の路肩に土留めの木を沿わせ、杭を打って固定します。去年の杭打ちの時よりもすいすい深く入るのは、裏返すと「崩れやすい場所」という意味になるのでしょうかね。さて、もう一か所、プレーパーク付近に補修が必要な凸凹な路面がありました。そこまで一輪車で運ぶのは無謀そうです。残りの土砂をテラーで運ぶというTさんからの作戦に、もちろん大賛成です。さっき直した道なら「何事もなく通れるはず…」です。総会の時刻も近づいてきたので、パパッと残りの土砂をテラーに積み、さあ行こう!今度はエンジン×キャタピラなので楽ちん。すぐ完了です。そこから管理棟までの道すがら、「この遊歩道で何回かテラーが谷にずり落ちたことがある」との話をAさんから聞きました。今日の作業がそういう事故の防止の役に立つと思うと疲れも爽快(総会?)に向かいます。

訂正)

4月の作業日誌でおまけのアナグマの話について、「まだ子供だから目が見えていないのかも」と書いた部分ですが、私の聞き間違いだったようです。「アナグマが子供」だったのに違いはないのですが、「視力が弱いのは大人も含めてアナグマの性質」とのことで、後日改めてAさんに教えてもらいました。ありがとうございました。（楠 正暢）



プレーパーク整備

4名参加 総会の為午前中のみ活動

プレーパークの再開に伴い老朽化の進む遊具を安全に楽しく使って貰う為に現状を調査し補修の算段を行う。

本日は滑り台の調査を行い主要柱の老朽化により不安定で交換必須な柱が1本、十分な高さが無い為交換した方が良いものが1本、滑走面の補修・調整が必要、連結に使われているロープの交換、上部の横棒が主要柱に連結されていない所の調整・整備が必要と判断した。作業の為、交換用のヒノキ・ロープの調達が必要。 (MASATAKA TSUBAKI)

うるし谷整備

今日のメンバーはMさんと彼女の娘さん二人が加わってくれて、みんなで9名でした。

作業内容は先日の豪雨による災害の復旧と梅の収穫ですが、ウメの収穫作業はMさん親子ががんばってきっちりやってくれました。

さて、災害復旧と書きましたが、6月2日前後に全県内で出された大雨洪水警報の際にこの地域に発生した線状降雨帯の局地的集中豪雨見舞われて氾濫、決壊したこぶし川の復旧と壊れたとんぼ池の復旧作業です。リーダーを中心に男女7名が手分けして作業に取りかかりました。

トンボ池はNさん主体で、大雨により流れ込んだ土砂の掻き出しを行い、流失した堤防に土を積み増してかなり進みました。Nさんは次回の活動日には完成させるとがんばってくれています。

また、こぶし川の復旧作業ですが、その惨状たるやものすごく、ふだんやちょろちょろ流れるせせらぎの音に癒される場所であったのが、一夜にして濁流に飲まれ流れの姿も変わってしまい、堤防決壊場所では護岸に使った直径30cm級の丸太や石が押し流されて、川底もえぐられる大被害。その復旧作業は難航するも、杭打ちから始め丸太積み、裏石詰めと順次作業が進み始めたところで、お昼の倶楽部員総会に合わせて終了しました。

みなさん、お疲れさまでした。 (松下 喜代治)



里山整備体験講座

里山整備体験の第3回目に参加しました。

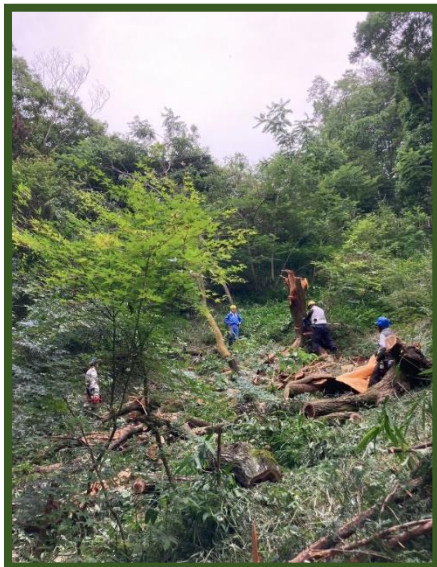
本日の参加者は我が子2人含む13名、カマを使って植樹地の草刈りです。

場所は漁民の森とネムノキ谷、ここは去年の3月に開催されたイベント『オオムラサキ探検隊！出動！』に親子で参加した際に植樹を行った所でした。当時は斜面に即席で作ってくれたであろう階段を下り、子どもでも難なくたどり着いた場所は腰丈ほどの笹藪と化し、それぞれ目的地へ移動するのですがまさに藪漕ぎ状態、倒木の障害物がさらに難易度をあげ、もうやけくそでした。

漁民の森のモミジはネザサ越しでも分かるほど大きくなってましたが、ネムノキ谷に植樹したはずのコナラは目印の竹がかろうじて見えるだけで完全にネザサに支配されていました。うっかり強くにぎるとメチャクチャ痛いクサイチゴが混じるネザサの藪をカマで刈っていき、苗木を傷つけないよう慎重に救出します。

その埋もれていたか細いコナラの苗木にでっかい毛虫が乗っかっていました。何故ここを選んだのか疑問で、しかもすくすく成長しているのが単純にすごいと思ったのですが、光合成の妨げになっちゃうということなので速やかに移動していただきました。

今回、自ら植樹した地のお手入れに親子で関われたことはとても有意義で、植えたら終わりではなく始まりだということをも身をもって実感できました。 (楠部 侑季)



総会も無事に終わりました。長年理事長を務めてくださった土生川さんと彼を支えてくれていた水口さんが引退され、神波さんと谷藤さんのお二人が新しい理事に就任されました。

監事の前田さんも引退されて、新しく藤竹さんがやってくれることになりました。引退された役員のみなさん、お疲れさまでした。でも、これからもいろいろお世話になります。

総会の際に倶楽部員の数を確認したら、なんと250人。法人になる前に260人まで会員が増えたことはありますが、それから倶楽部員は減り続け、10年ほど前には120数人まで落ち込んだことを考えると、何ともたくさんの仲間が増えたものです。

土生川さんに代わっての新しい理事長は赤阪進さん。新理事長とともに新しい時代のNPO法人としていろいろやっていきましょう。

みなさんのご協力を期待しています。 (岡田 和久)